

駿河小判座と日本銀行



2015年9月
日本銀行静岡支店

徳川家康公による貨幣統一

- 徳川家康公は、天下統一の一環として、それまで各大名が鑄造・管理していた①金貨と②銀貨、渡来銭や質の悪いものが混じる③銭貨（銅銭）、をそれぞれ統一（三貨制度）。
- 三貨制度は、幕府の発行する金銀銅の三貨を軸として、各藩の藩札等も併存する緩やかな制度。
- これによりわが国は、銀貨と中国銭貨を基準とする東アジア通貨圏から離脱。
- 貨幣を輸出し、生糸や絹織物を輸入。

三貨の鑄造所(金座等)の設置

- 1601年、徳川家康公は幕府発足(1603年)前に金座(小判座)、銀座を設置。

⇒ 三貨制度の第一歩

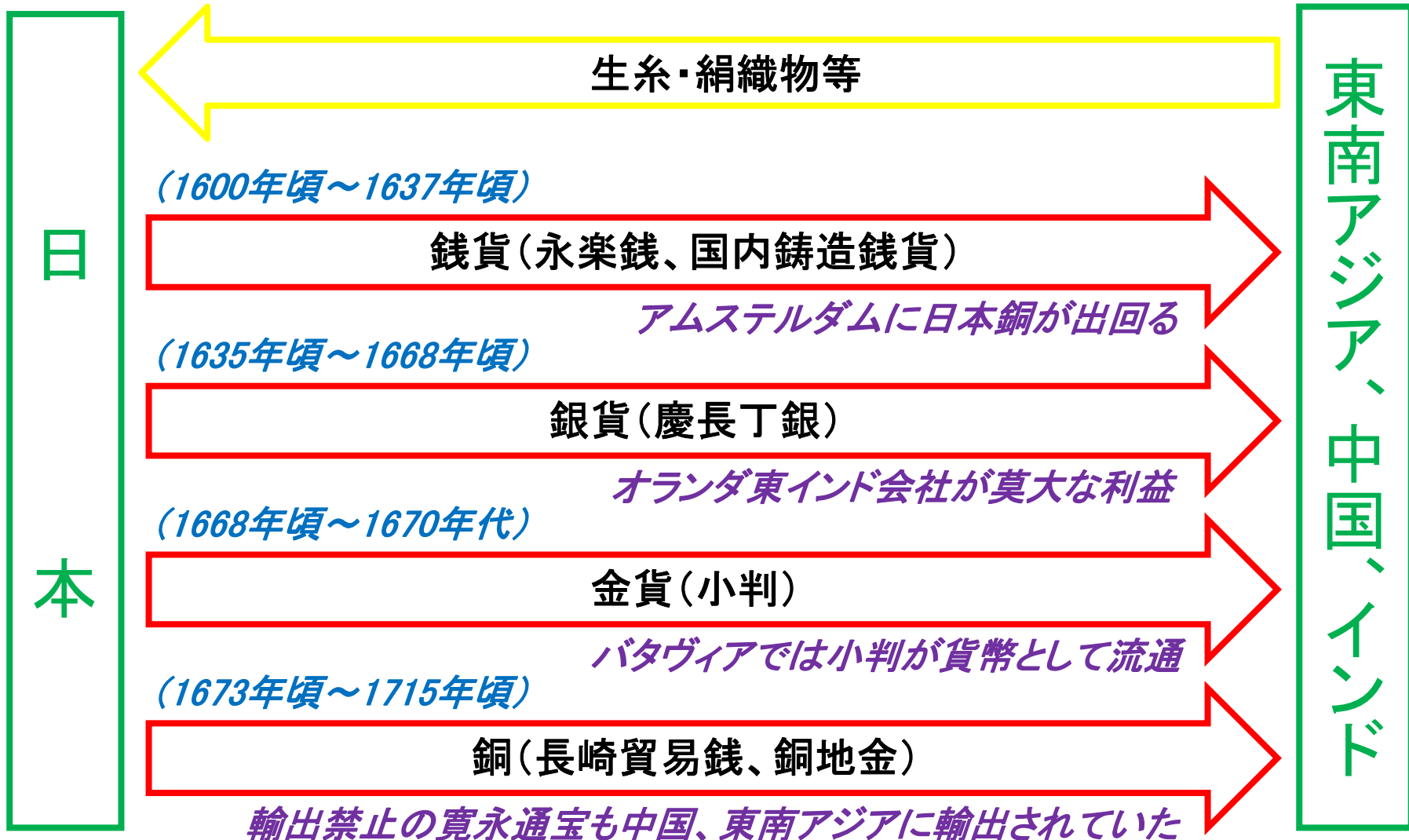
- 金座...1601年:江戸・京都、07年:駿府(→12年、江戸へ)、21年:佐渡。

駿河金座は、日銀静岡支店のある葵区金座町にあった。

- 金山...新潟県の佐渡金山が有名。

静岡県内にも、土肥と梅ヶ島(日影沢)に金山があった。

三貨制度と通商



駿河小判と金座町

- 日本銀行静岡支店が所在する、現在の静岡市葵区金座町には、江戸時代の金座（小判座）が置かれ、駿河小判が鑄造されていた。
- 駿河小判座では、徳川家康公の命により後藤庄三郎（天正大判を作った後藤徳乗の弟子）を登用。
- 当時、駿河小判座辺りは、上魚（かみさかな）町とか、上ん店（かみんたな）町と呼ばれていたが、現在の町名（金座町）は駿河小判座が所在したことに由来。



駿河金座でも
作られていた
慶長小判

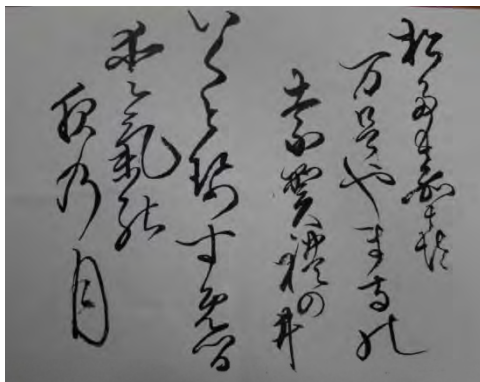
後藤庄三郎光次(みつつぐ)とは

▼ 後藤宗家と後藤庄三郎

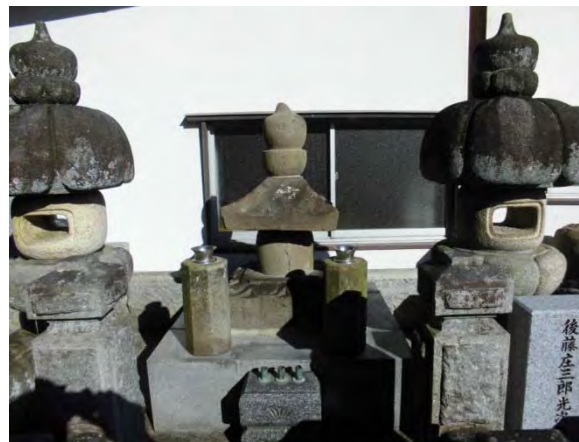
後藤徳乗(室町幕府以来の御用金匠の5代目宗主)の高弟だった庄三郎は、後藤の名字と光次の諱、扇に五三桐紋の極印の使用を後藤宗家から許され、慶長小判・慶長一分金の製造にあたった。

庄三郎は、その聡明さが徳川家康公に認められ、政治・経済・交易等の分野で活躍。しかしながら、徳川家康公の死後、庄三郎家の権限は限定され、2代広世は長崎貿易と金銀座支配のみに、6代光富以降は本来の金座支配のみとなった。1571年生、1625年没。

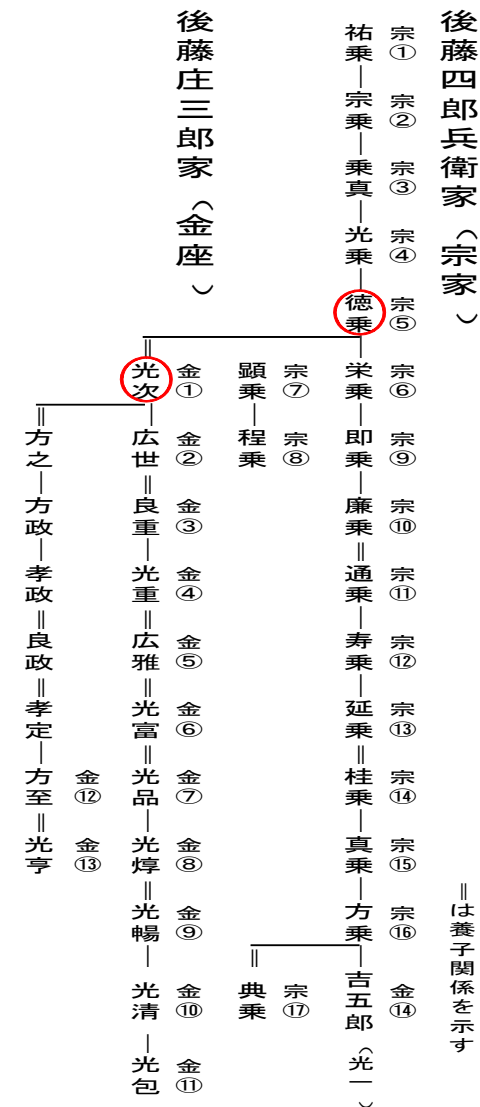
▼ 安西寺(静岡市葵区丸山町)と後藤庄三郎



松高き丸山寺の流れの井
いくとせ住める秋の夜の月
(歌: 徳川家康公 書: 後藤庄三郎光次)



後藤庄三郎の供養塔

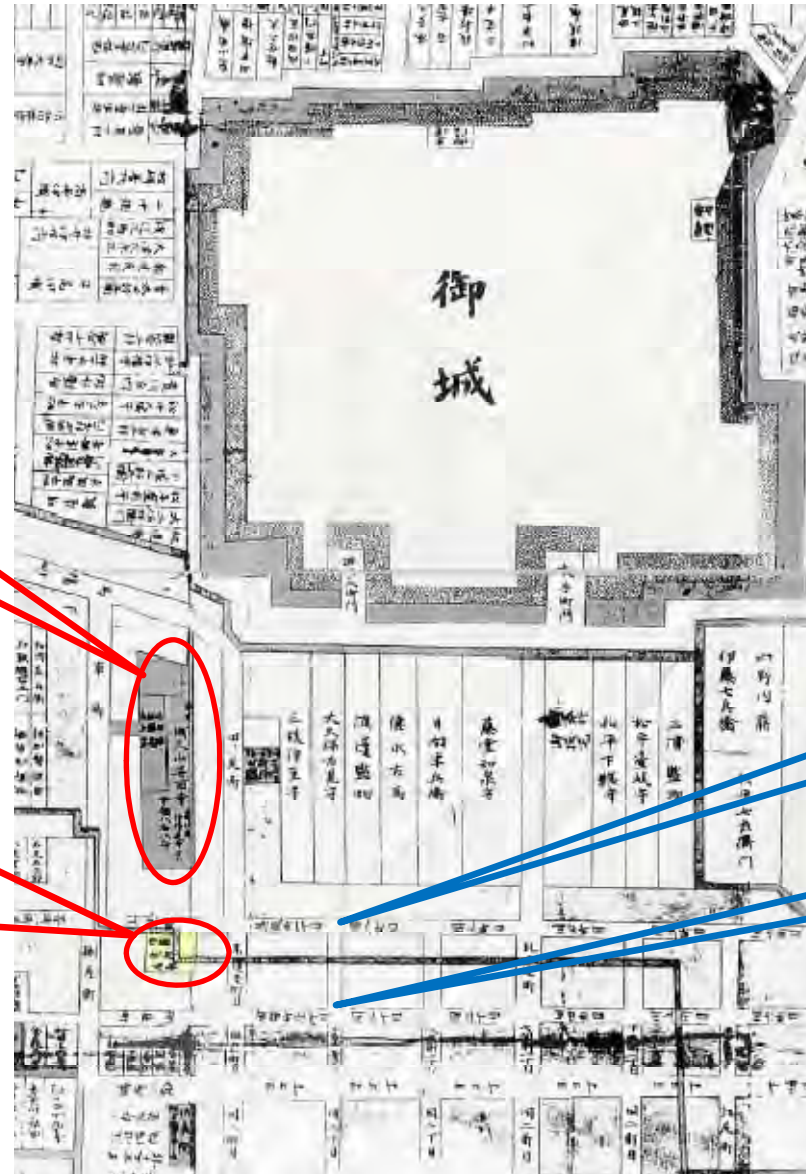


寛永15年(1638年)頃の駿府



現在の葵区富士見町
にある安西寺址碑

北



安西寺

上魚町

後藤庄三郎屋敷

呉服町一丁目

両替町一丁目

金座での作業

江戸金座を描いた金座絵巻「端打場」



小判を重ねて木槌で打ち、
形を整えている。

江戸金座は、現在の日銀本店の場
所(中央区日本橋本石町)にあった。

三貨制度と財政・金融①

■ 17世紀末以降、金銀貨の改鑄が行われた。

主な小判の比較

■ 改鑄の主な目的：

- ① 財政悪化への対応
- ② 貨幣素材不足への対応
- ③ 貨幣量の調節

による物価安定

= 金融政策の萌芽

18世紀前半には、物価の上昇や下落に対応した金含有量の引き上げ、引き下げを実施。

	慶長小判 (1601)	元禄小判 (1695)	万延小判 (1860)
重量	17.9g	17.9g	3.3g
うち金	15.0g	10.2g	1.9g

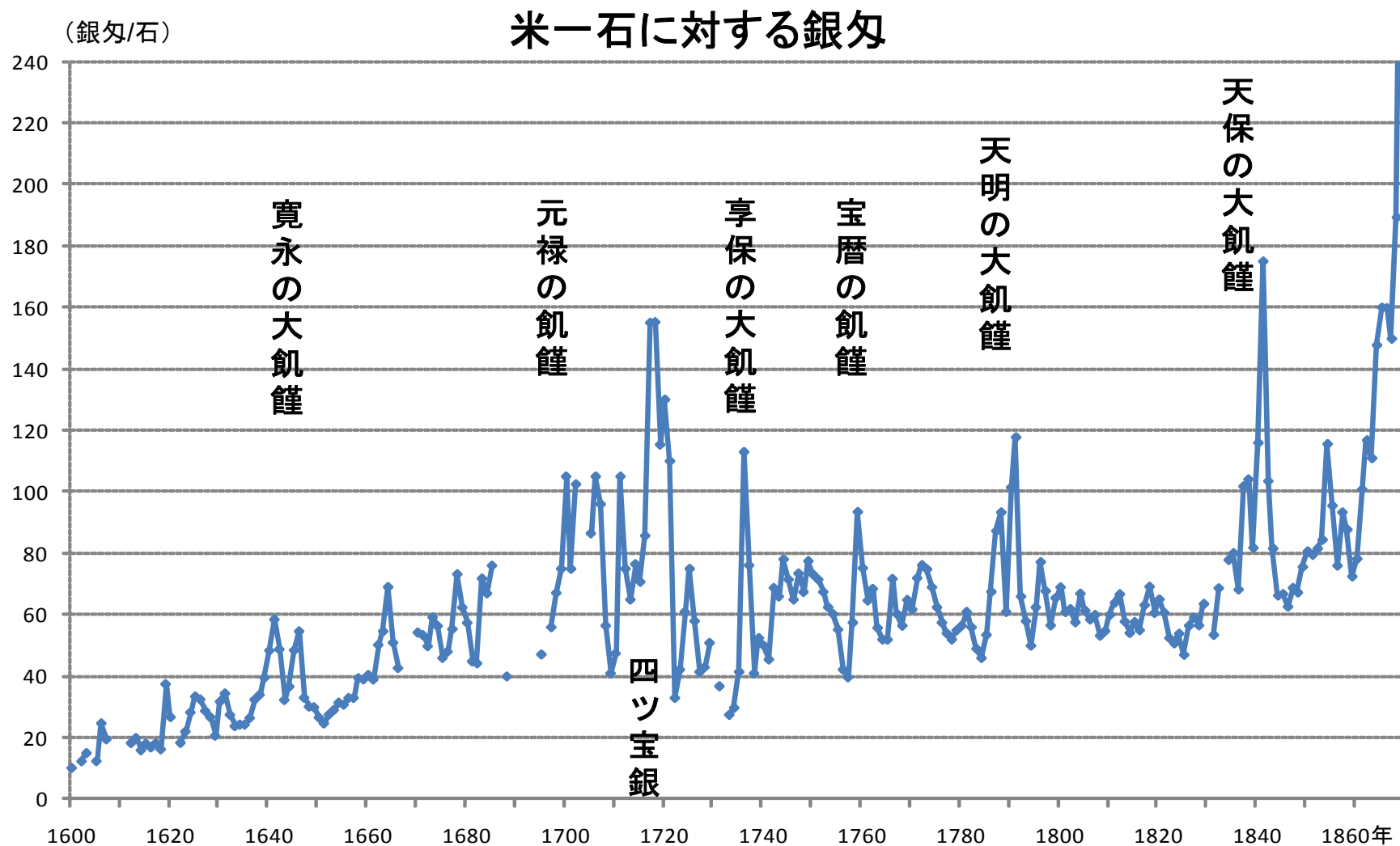
三貨制度と財政・金融②

江戸時代の主な改鑄

小判	金含有量	背景・内容・結果
慶長(1601)	15.0g	
元禄(1695) 宝永(1706～)	10.2g 7.8g	財政悪化や地金不足から金含有量を下げる。 貨幣 量膨張、物価上昇 。
正徳(1714) 享保(1715)	15.0g 15.5g	新井白石の建議。インフレ対策で金含有量を上げる。 米価低落 等を招く。
元文(1736)	8.6g	吉宗の政策。金含有量を下げたところ、 通貨量増 加、米価回復 。その後80年間改鑄なし。
文政(1818～) 天保(1832～)	7.3g 6.4g	財政悪化等で金含有量を下げる。 貨幣量膨張、物 価上昇 。
安政(1859) 万延(1860)	5.1g 1.9g	開国後の 金貨流出 対応で金含有量を下げる。万延 の改鑄後、流出減少。 幕末の激しいインフレ へ。

開国時の金銀交換比率は「金1g≒銀5g」と、海外の相場(金1g≒銀15g)に比べ金が割安。このため、金貨が海外に流出。

米相場の変遷



金貨等の価値の推移

	現在の通貨価値 ^(注)	金貨	銀貨
江戸初期	10万円前後	1両	50匁
中期	6万円前後		60匁
後期	2万円弱		
末期	0.8～1.3万円		70～120匁

(注)米価換算ベース

三貨制度から「円」へ

- 明治維新後も、政府の太政官札等は「両」単位。
- 1871(明治4)年「新貨条例」で「**円**」に移行(1円=金1.5g)。

1872年、国立銀行紙幣発行。西南戦争により政府紙幣、国立銀行紙幣増発→激しいインフレ。

- 1885(明治18)年、**日本銀行券**発行。

銀行券の一元的な発行による通貨価値の安定が目的。

- ・最初の日本銀行券は兌換**銀**券。
- ・1897年、**金**本位制に移行。
- ・1942年、**管理通貨制度**へ移行。
- ・1946年、**新円**切り替え。→現在の「円」へ。

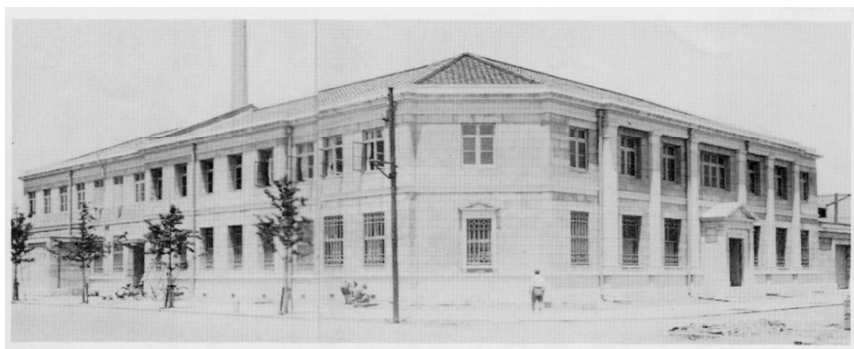
円は金本位制であったが、銀貨にも通用力を認めたため、実質的には金銀複本位制。

旧貨幣「金1両」の引換価格

太政官札金一両	1円
万延小判1枚	1円30銭4厘
万延二分金2枚	1円8銭6厘
万延一分金4枚	1円30銭4厘
万延二朱金8枚	1円8銭9厘
安政一分銀4枚	1円24銭7厘
嘉永一朱銀16枚	1円18銭4厘

日本銀行静岡支店の沿革

- 昭和18年 6月 全国で23番目の支店として開業
(静岡市下石町)
- 昭和20年11月 戦火による焼失で静岡銀行中央支店跡
(静岡市呉服町)に移転



昭和18年開店当時の店舗



昭和20年当時の店舗

- 昭和47年10月 現店舗新築、移転
(静岡市葵区金座町)
- 敷地面積 4,276m²(1,293坪)
- 建物 延6,602m²(1,997坪)



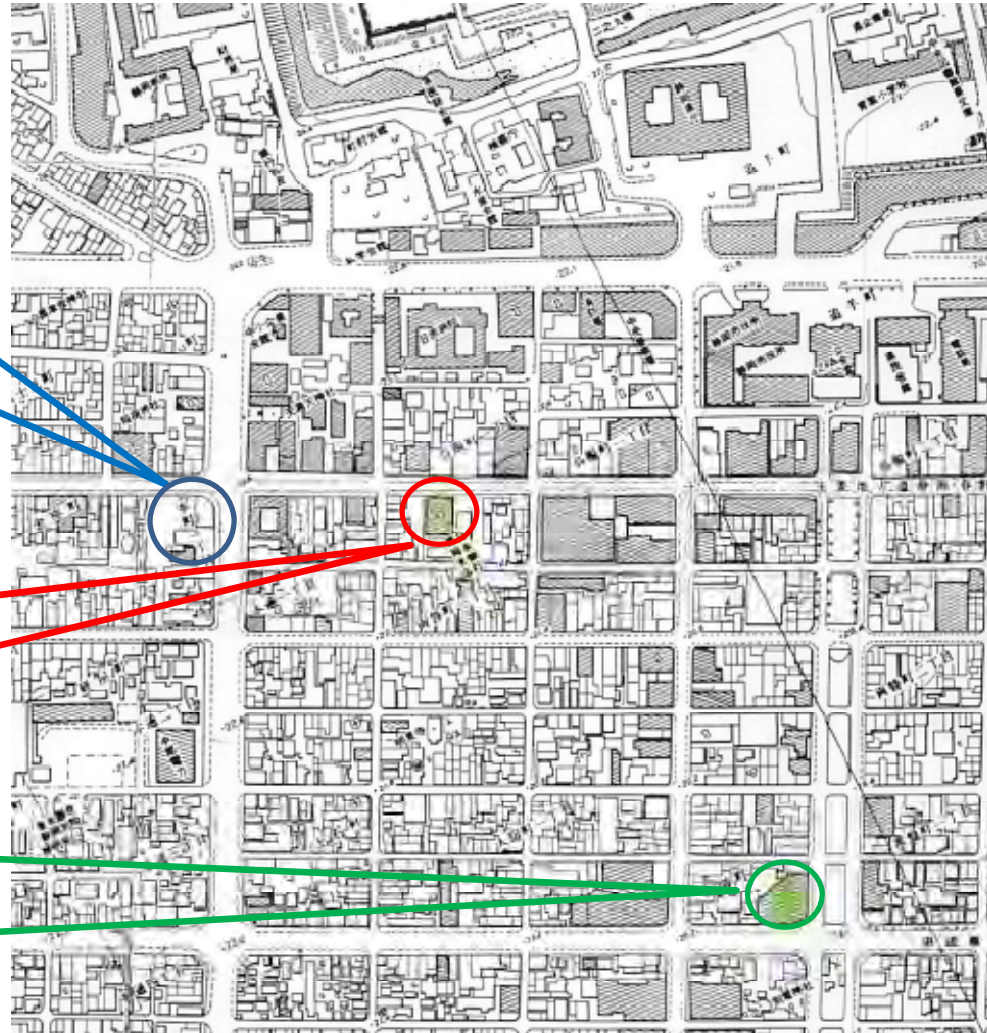
現在の当店外観

昭和43年(1968年)頃の静岡市

現在の
日本銀行静岡支店
金座町26-1

昭和20年～47年まで
呉服町1丁目で営業

昭和18年6月1日
静岡市下石町(現在の
常磐町)に開業



◆出所・資料提供

- 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 静岡市立中央図書館所蔵
 - ・「静岡中心街誌(付録地図)」
～静岡市中央商店街連合会許諾済み～
 - ・「駿河國駿府古繪圖」